NISHINOMIYA STORKS

現役Bリーグ選手の今野翔太さん（36歳/西宮ストークス所属）。2007-08シーズンのプロデビュー以降、15年にわたって活躍を続けている。

SOCIAL

摂津市出身Bリーグ選手「今野翔太」さん 選手と社長業両立でバスケを普及

「サッカーや野球は近所にグラウンドがあって、行けばすぐに遊べる。でもバスケットボールは体育館を予約しないと遊べない。他のスポーツに比べると根付いていないなと感じます」。そんな現状を改善するために、2019年9月にCentral W株式会社を立ち上げた。

主に幼稚園や保育園、介護施設などに訪問し、バスケットボールの魅力を伝え、「ゴールがあればちょっとしたゲームもできる」とゴールを寄贈。またSPIRIT ACADEMYというキッズスクールを運営する。現役でありながらこういった活動を行うのには強いこだわりがあるという。「現役だからこそ一つひとつの言葉に説得力があり、響くものがあると思うんです。子どもたちも現役の選手が来るってなると喜んでくれますしね」。また、引退後のロールモデルになりたいとも話す。「スポーツ選手のセカンドキャリアって難しいんです。僕がこういう活動をすることで、『そんな選択肢もあるんだ』って考えるきっかけになれば嬉しいですね」。

今年9/20（月）には摂津市のデイサービス「ツクイ摂津別府」にゴールの贈呈式が開かれた。会場は今野さんを迎えるための装飾やうちわが用意されていて歓迎ムード。職員がシュートパフォーマンスを見せたり、利用者からは「彼女はいるんですか？」など茶目っ気のある質問も飛び、大盛り上がり。「おばあちゃん子なので、できれば参加して皆さんとお話したかった。リモートでも喜んでもらえて良かった」と嬉しそうに話す。贈呈されたゴールは利用者の機能訓練に活用されるという。

スポーツ界では36歳はベテランの域。「同期で現役の選手は少なくなってきましたが、試合に出続けられる限り続けたいですね。49歳が最高齢なので50歳を目標に頑張りたい」と話してくれた。

コラム／COLUMN

梅花から「令和」を込めて

五穀豊穣に感謝して

11月は、五穀豊穣に感謝する新嘗祭が各地で行われます。『万葉集』には天平勝宝四年（752）、従三位文室智努真人（ふんやのちぬまひと）の歌が次のように残されています。

天地（あめつち）と　久しきまでに　万代（よろづよ）に
仕（つか）へ奉（まつ）らむ　黒酒白酒（くろきしろき）を
天地与　久万弖尓　万代尓
都可倍麻都良牟　黒酒白酒乎

（巻19・4275番歌）

「天地と（ともに）幾久しく、万代までも（新穀で神酒を醸造して）奉献いたしましょう、黒酒と白酒とを（揃えて）」と詠まれています。「白酒」は濁酒。「黒酒」はクサギという植物の灰を混ぜて造られていました（『延喜式』巻40「造酒司」）。昼間の厳かな神事が、夜の宴の場で思い起こされ、詠まれています。

都の歌に対して、東国には次のような歌を見つけることができます。

誰（たれ）そこの　屋の戸押（にふなみ）そぶる　新嘗に
我が背を遣りて　斎（いは）ふこの戸を
多礼曽許能　屋能戸於曽夫流　尓布奈未尓
和我世乎夜里弖　伊波布許能戸乎

（巻14・3460番歌）

「誰ですか家の戸を押し動かすのは、新嘗に夫を行かせて、（家で）神事を行っているこの戸を（押し動かすのは）」と。留守を狙っての侵入者なら物騒ですね。

『常陸国風土記（ひたちのくにふどき）』「筑波郡（つくばのこおり）」の条には、祖先神（そせんしん）が、多くの神々の所を廻られたというエピソードが、次のように記されています。日も暮れたので、駿河国（静岡県）の富士山で宿泊を求められましたところ、新穀祭の最中。家の中は物忌みをしているので無理です、と断られたそうです。祖先神は「あなたの親なのに泊めてくれないのか」と、たいそう恨まれたとのことです。常陸国（茨城県）の筑波山では、新嘗の最中ですが、それでもよろしければと迎え入れられ、祖先神が喜んだとあります。富士山は恨みを受けて夏でも雪が降り人も登らず、筑波山は今日でも、人々がにぎやかに行き集い、歌い舞う行事が続いている由縁になっています。先の東歌も、そんな神事の一場面を詠んでいるようです。

祝い方は地域よって様々のようです。皆さんのところでは、どのようにされているのでしょうか。私は新米を食べて、季節の恵みに感謝したいと思います。

TEXT

梅花女子大学教授　市瀬 雅之

現代訳から原文までを用いて『万葉集』に文学を楽しむほか、『古事記』や『日本書紀』等に日本神話や説話、古代史をわかりやすく読み解く。中京大学大学院修了 博士（文学）。
著書に『大伴家持論 文学と氏族伝統一』おうふう 1997年、『万葉集編纂論』おうふう 2007年、『北大阪に眠る古代天皇と貴族たち 記紀万葉の歴史と文学』梅花学園生涯学習センター公開講座ブックレット 2010年。ほか執筆・講演・講座多数

MONTHLY OF TOPICS

大阪のビールを発信 クラフトビール醸造所18社が協会を設立

「箕面ビール」（箕面市）や「3TREE BREWERY（スリーツリー ブルワリー）」（茨木市）など、府内でクラフトビールを醸造する18社が「大阪ブルワーズアソシエーション（OBA）」を設立した。9月には合同で仕込んだ「OBAビール」を発売。昨年以降、コロナ禍で苦境に立たされるビール業界だが、協会の会長を務める「箕面ビール」大下香緒里代表は「結束して厳しい局面を乗り越え、大阪のビールを発信していきたい」と話す。

「ハーベストの丘」（堺市）で仕込み作業を行ったOBAメンバー

地ビール総出荷量　約25%減

民間信用調査会社の東京商工リサーチによると、全国の主要地ビールメーカー70社の昨年1～8月の総出荷量は、6,666.2klで前年同期に比べて25.1%の減少となった。特に、全国的に緊急事態宣言の影響を受けた昨年5月は58.0%減（前年同月比）と、過去最大の下げ幅を記録した。今年に入って前年の出荷量を上回る月もあったものの、出荷増が期待された8月は外出自粛や飲食店の時短営業、酒類提供の制限などが重なり5.1%減（前年同月比）となった。

ビールの世界大会で多くの受賞歴をもつ箕面ビールも、大下代表によると昨年は「落ち込んだ月は例年の5～6割減」となった。家飲み需要により一部回復するも、今年に入り緊急事態宣言の長期化の影響を受け、厳しい状況が続いた。醸造したビールをその場で提供するブリューパブを営む協会員の事業者は、時短営業や酒類提供の制限などでコロナ禍の影響はより深刻だったという。

助け合えるネットワーク作りを

協会を設立する構想は数年前からあったが、「コロナ禍での厳しい状況が後押しになった」と大下代表は言う。各社が苦境に立たされながら、相次ぐビールイベントの中止により醸造所同士の交流も失われていた。そこで「醸造技術の向上と、助け合えるようなネットワーク作り」を目的として協会の設立に至った。

OBAビール

今回発売した「OBAビール」はアルコール度数4.5%と飲みやすいセッションIPA。アメリカンホップの香りと苦みを最大限に引き出し、爽やかな味わいに仕上げた。仕込み作業は、会員の醸造所11社が集まって行い、麦汁を作る際の温度設定やホップの煮沸時間など現場で話し合いながら完成させた。出荷量については「まだスローペース」だが、10月から飲食店での酒類提供が認められたこともあり、「これから順調に伸びてくれれば」と期待する。今後も、OBAブランドで新たなスタイルのビールを醸造する予定だ。

醸造所に足を運ぶきっかけに

「クラフトビールは同じ原材料、同じスタイルでも造り手によって風味や味わいが違う」と大下代表はいう。地方ごとに地元の人に愛され、そこに根付いたクラフトビールがある。造り手と飲む人が身近で、醸造所ごとの個性を楽しんでもらえるのがクラフトビールの魅力だと考える。大下代表は「OBAビールをきっかけに、大阪にもたくさんのブルワリー（醸造所）があることを知ってもらい、ぜひ地元のブルワリーに足を運んでほしい」と話している。

「コロナ禍で時間に余裕ができ、新しいビールの開発も積極的に行っている」と話す大下代表

仕込み作業の様子

「OBAビール」（330ml瓶／参考価格600円）。
購入は「ハーベストの丘」HPにある注文書を印刷してFAX（072-296-9920）。
受付は11月30日まで（なくなり次第終了）。問い合わせは同公園（072-296-9911）